

わくわく

12月号

本だな

1 2 3 年



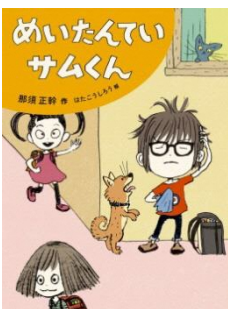
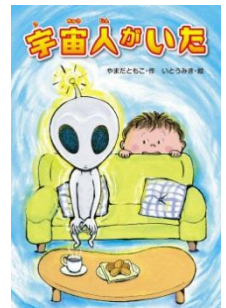
E 『日本どっちからよんでも さんぽにっぽんさ』
 本村垂美／文 高畠純／絵 絵本館
 「さんさく とやまや とくさんさ」。はじめから読んでも、おわりから読んでも、同じ言葉を回文といいます。
 ほっかいどうからおきなわまで、日本全国47都道府県の回文をしょうかいします。みなさんも声に出して読んでみてください。

えほん

K913 『宇宙人がいた』

やまだともこ／作 いとうみき／絵 金の星社
 けんたろうが家に帰ると、ぜんしん銀色のうちゅう人がいました。うちゅう人は、こわれたUFOをしゅうりするために、庭をかしてほしいと言います。かわりにうちゅう人が、けんたろうのかていきょうしをしてくれることになりました。

ものがたり



K913 『めいたんていサムくん』

那須正幹／作 はたこうしろう／絵 童心社
 サムくんは、空色のハンカチのにおいをかぐと、あたまがさえて、すいり力がまします。ある朝、学校のくつ箱から友だちのうわぐつがなくなるといいうじけんが起きました。サムくんは、このなぞをとくことができるのでしょうか。

ものがたり

E 『雨の日の地下トンネル』

鎌田歩／作 アリス館
 雨の日にまちに水があふれないのは、どうしてでしょうか？
 雨水は、はい水こうから道路の下へ流れ、きよ大なトンネルを通過して、〈たてこう〉というあなにたまり、大きな川へ流れます。ふだんは見ることができない地下のようすをのぞいてみましょう。

ちしきのほん



わくわく

12月号

本だな

4 5 6 年



物語

K913 『俳句ステップ!』

おおぎやなぎちか/作 イシヤマアズサ/絵 佼成出版社
クラスの中では目立たない七実には、ひみつがあります。それは、公園で出会ったおばあさんと、ひそかに俳句をつくっていることです。

ある日、市の俳句大会で優等生の早知恵が大賞をとったことが発表されました。ところが賞をとった俳句は、七実が遠足のときにつくった俳句と同じだったのです。

物語

K953 『10分あったら…』

ジャン=クリストフ・ティクシエ/作

ダニエル遠藤みのり/訳 森川泉/絵 文研出版

古い家に引っこしたティムは、パパにたのまれて部屋の壁紙をはがして見ました。すると、壁紙の下からふしぎなメッセージがつつぎつつぎにあらわれます。「これはわたしの物語」「12本の金の延べ棒」。

もしかして、この家のどこかに宝物がかくされているのでしょうか。



ちしきの本

E 『子どもの本の世界を変えたニューベリーの物語』

子どもの本は楽しくなくちゃいけない!』

ミシェル・マーケル/文 ナンシー・カーペンター/絵

金原瑞人/訳 西村書店

今から300年前には、本は大人のものばかりで、子どもの本はありませんでした。世界で初めて子ども向けの本を出版したのが、イギリスのジョン・ニューベリーです。

アイデアマンで商売上手なニューベリーは、100冊以上も楽しい子どもの本を出版して大成功しました。

